第 10 回 北海道林業・木材産業に関する連絡会議 概要

【開催日時】 令和 4 年 7 月 11 日（月）
【開催方法】 オンライン会議
【出席者】 13 団体・企業
【開催結果】

【需給状況】

（輸入材）

- 令和４年１月から５月までの苫小牧港における輸入材の入荷量は、前年と比べてかなり多い状況。
- アメリカでは、金利上昇でローンの借入が減り、住宅着工も減少する見込みであり、それに伴い、ヨーロッパ材の価格も徐々に下がる見通し。
- 輸入材の価格低下に伴い、道産木材製品の価格も下げられることがないよう対応していく必要。
- 輸入材の価格は今後下がると見込まれるが、その時に道産木材を選んでもらえるか心配。

（原木）

- 国有林の今年度の立木販売事業は前年度比 106%、製品販売事業は前年度比 110%を計画。
- 道有林の立木販売では、トドマツ物件の販売単価が下がっている状況。
- 一般民有林の出材は、夏場は下草刈りなどの保育作業を中心に行うため、冬まで例年通りの見通し。

（建築材等）

- カラマツの需要は依然として旺盛。トドマツは若干落ち着いてきた感がある。
- 本州のハウスメーカーでは、国産材回帰の動きがあり、カラマツの需要は今後も旺盛との見通し。
- 札幌市内の５月の住宅着工数は、前年同月比８割程度、９月以降の需要が見えづらい一方、非住宅は好調。
- 扱う商品にもよるが、中長期的には本州からの道産木材の引き合いは続いていくだろう。
- 全層スギの合板がかなり浸透。本州の合板工場がスギ原木を集めており、在庫はかなりある状況。

【今後の対応に対する意見等】

（原木の供給）

- 国有林、道有林では、立木販売の前倒しや早期発注・販売など、引き続き需給への対応を行っていく。
- 原木生産に係る燃料価格の上昇分に支援する道の緊急対策事業はありがたい。
- 物価高騰で重機等への投資に手が出せない。
- 木材価格の上昇と需要の増加により、伐採量が増えた場合に、再造林が確実に行われるのか心配している。特にカラマツの今後の資源量の予測などについて整理し、外部へ情報発信していく必要。
- 建築材の原木を増やすためには、山側での品質による仕分けを行い、製材工場に入ってくる原木の質を高めることが必要。

（建築材等の供給）

- 各工場は原木確保など先行きへの不安から、設備投資に慎重な姿勢。補助金等があれば設備投資が加速するのではないか。
- 製材工場では、加工しやすいサイズのカラマツだけでなく、大径材やトドマツを有効活用して数量を確保していくことも必要。
- 忙しい状況ではあるが、機を逸しないよう建築材の増産に取り組むべき。

（その他）

- インターンシップに来た学生からは、HP や SNS 等に林業関係企業の情報が少ないとの声を聞いており、担い手確保に向けて、各企業が情報を上手に発信していくことが重要。